

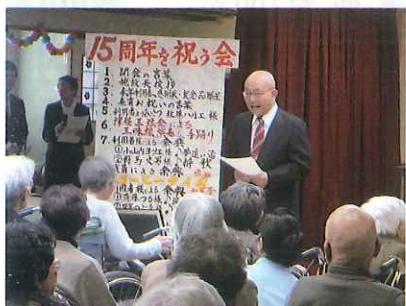
Santa Journal

Hirosaki Houtokukai Public Relations

vol.6

開設
15周年を祝う会

デイサービスセンター サンタハウス弘前



開設当初同施設の職員として従事していた高松宏之様が、お祝いにかけつけて下さいました。



感謝の言葉を述べる佐藤ハルエ様



利用者様と職員に施設の歴史と発展について述べる下山政徳理事長。



永年利用者様記念撮影

平成24年3月12日(月)、「デイサービスセンターサンタハウス弘前」にて、「開設15周年を祝う会」が行われ、開設初日から利用を続けられている佐藤ハルエ様(85)をはじめとする5名の方々に対して、15年にわたり同施設を利用されたことを記念し、感謝状と記念品の贈呈をおこないました。

同施設は平成9年同日、弘前豊徳会最初の施設としてスタートし、開設当初は職員8名、利用定員15名でしたが、現在では職員21名、利用定員40名にまで発展しました。

当日は75名の利用者様をはじめ、開設当初の職員等を含め100名以上が同施設に集い、この記念すべき日とともに祝いました。

介護保険法改正に伴う介護職員等によるたんの吸引等実施について

平成24年度より介護職員によるたんの吸引が実施可能となり、青森県では「平成23年度青森県介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修事業（不特定多数の者対象）」を実施しており、当法人の職員2名が参加しました。



ご本人様並びにご家族様の同意を得たうえで、指導看護師が教授しました。

研修を行うまでの安全性の確保

- ①安全委員会の設置
- ②医師との密な連絡調整
- ③利用者ごとに具体的な個別計画を整備
- ④事例の蓄積・分析等、実地体制の評価、検証の実施

経管栄養

胃ろう等による経管栄養も今回の研修内容に含まれております。



平成24年3月10日（土）、公益財團法人日本財団より福祉車両が納車されました。日本財団では毎年100台以上の車両助成事業をおこなっており、今年は東日本大震災を考慮した助成事業がメインとなりました。「介護老人保健施設サンタハウス弘前」では4月より合計20名の被災者を受入れており、東北地方各地の送迎をおこなっております。

今回の助成では車両価格全てを日本財団が負担してくださることとなり、東北を繋ぐ掛け橋として更なる活動が期待されております。

公益財團法人
日本財団より

福祉車両納車

感染対策委員会主催 食中毒と感染症について



今年の冬はインフルエンザが全国的に大流行したこともあり、大変勉強になりました。

平成24年初めの研修として食中毒と感染症についての研修会をおこないました。当日は弘前保健所地域健康福祉課保健総室の飯塚崇行氏（主事）が講師として招かれ、全国で実際にあつた集団食中毒や集団感染の事例をあげ、再発防止対策を説明しました。

また、手洗いをするにあたり蛇口栓やその付近、共用タオル等も感染経路として危険性があることを実際に紫外線照射灯（通称ブラックライト）を用いて皆で確認し、一人ひとりの心構えに大きく結びつきました。

齊藤梅子様

満100歳を祝う会



これからも長生きしていきたいと抱負を述べる齊藤梅子氏



懇の気持ちを大切にして欲しいと述べる下山政徳理事長

平成24年1月24日(火)、「介護老人保健施設サンタハウス弘前通所リハビリテーション」をご利用されている齊藤梅子様が同日に100歳を迎えることを記念し「満100歳を祝う会」をおこない長寿を祝いました。

齊藤梅子氏は明治45年1月24日に生まれ、現在も当施設にて唄や踊り、人生の経験談を披露しており、とても元気に過ごされています。当日は弘前市健康福祉部の高橋文雄部長を含む市職員2名が参加され、顕彰状と記念品が手渡された他、当法人の下山政徳理事長から「思いやりの心を持ち続け、元気に長生きしてください。」と激励と記念品が贈られました。本人は「今後も長生きしていく気力をもらつた。」と話し、大変喜んでいらっしゃるご様子でした。

経験談を披露しており、とても元気に過ごされています。

平成23年度 一年間の思い出



3.11～東日本大震災から1年が過ぎて～

弘前豊徳会が取り組んだ被災地支援を振り返る

平成23年3月11日午後2時46分18秒、日本観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災の発生から1年が経過しました。弘前豊徳会は震災直後から、様々な形で被災地支援に取り組んでまいりました。それら活動等について振り返ります。

受入

復興進まず施設不足の被災地より要介護者20名を受入



最初の受入は平成23年4月11日。宮城県気仙沼市から5名を受入れた。



平成23年11月28日、岩手県宮古第一病院。受入要請は秋以降も続いた。

H
※ 23
平成
24
年度も活
動を継
続 11
・ 4
・ 12
・ 3
・ 24
・ 3
・ 20



岩手県陸前高田市の高田松原。7万本あった松のうち、ただ1本だけが残り、復興の象徴「奇跡の一本松」として被災者に勇気と希望を与えた。

災害ボランティアとして
介護職員2名を大槌町へ



派遣された職員は避難所の高齢者の実態調査の他、入浴介助も実施した。



派遣先は岩手県大槌町。避難所に使用されていた体育館。

H
23
・ 4
・ 12
・ 3
・ 23
・ 4
・ 20

雇用

被災者対応緊急雇用創出事業を弘前市より受託
福島県からの避難者2名を事務職員補助として雇用

H23.11.1～H24.3.31 ※平成24年度も継続実施予定

被災地関係機関職員の施設訪問／
法人職員の被災地訪問（復興状況調査）

交流

連携

平成23年4月～24年3月までの受入状況

以下の3県7市町村から計20名の被災地要介護者を、介護老人保健施設サンタハウス弘前にて受入れました（現在は14名の方が入所中です）。

岩手県 宮古市 2名
岩手県 山田町 2名
岩手県 大槌町 1名
岩手県 大船渡市 2名
宮城県 気仙沼市 9名
宮城県 石巻市 1名
福島県 南相馬市 3名

被災地の復興にはまだ時間がかかります。
弘前豊徳会は平成24年度も、被災地支援を継続します。

社会福祉法人 弘前豊徳会 広報誌 サンタジャーナル

Santa Journal

通算第6号
発行日 平成24年3月31日
製作 社会福祉法人 弘前豊徳会
編集部 サンタジャーナル編集部
発行責任者 阿保 英樹

〒036-8311
青森県弘前市大字大川字中桜川18番地10
TEL 0172-99-1255 FAX 0172-99-1256
URL <http://houtokukai.org/>
Eメール santa-h@chive.ocn.ne.jp

今年の干支「辰」の姿で残った宮城県気仙沼市の「龍の松」。もう1つの復興の象徴だ。

